

産業

本市の農業については、市の中心部を貫流する鈴鹿川によって、右岸の平坦水田地域と左岸の丘陵地畑作地域に大別される。

平坦水田地域においては、約 2,500ha 余りの水稲作付面積から生産される水稲や、小麦等の生産が盛んに行われています。また、丘陵地畑作地域においては、花木類、茶の栽培が盛んであり、全国屈指の生産地を形成している。

工業については、広大な旧軍施設跡を基盤として戦後の工業化の潮流のなかで積極的な工業誘致を進め、工業生産都市として大きな発展を遂げた。

主要工業としては、繊維等の軽工業から輸送機器、化学工業や電子機器工業へ移行し、現在では輸送機器が全体出荷額のおよそ 7 割を占めており、工業振興に大きく貢献している。

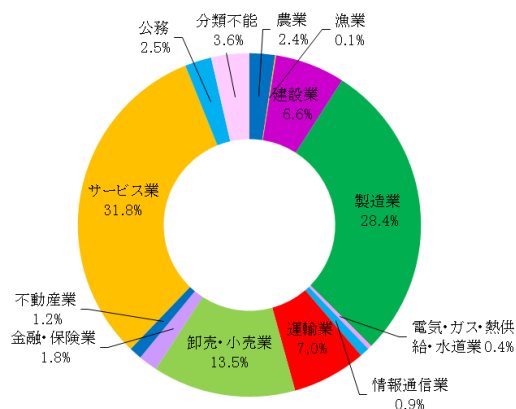
商業については、大型店の出店により、都市間競争の中で、対外的な競争を強めているが、さらなる発展を目指し、既存商店街の活性化が進められている。

産業の総就業者数については、生産年齢人口の減少など、少子高齢化社会が進むことに起因した様々な要因により、近年減少が進んでいる。産業別には、第 1 次産業の就業者数は後継者不足等により減少傾向が続いている。第 2 次産業は企業の再構築に伴う空洞化、多様化などが一層進み、第 3 次産業は今後の都市化の進展によって、就業者数に影響を与えていくと考えられる。

産業別就業者数

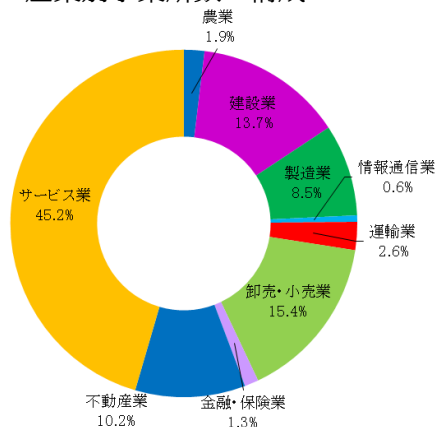
年次 区分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	
								就業者数	構成比
第1次産業	6,254 人	5,027 人	4,812 人	4,280 人	3,790 人	2,866 人	2,773 人	2,349 人	2.5%
第2次産業	38,048 人	42,555 人	40,869 人	39,307 人	37,236 人	33,317 人	32,574 人	32,960 人	35.0%
第3次産業	36,167 人	41,395 人	48,010 人	51,691 人	54,249 人	53,041 人	55,706 人	55,478 人	58.9%
総 数	80,611 人	89,439 人	94,077 人	95,477 人	97,777 人	96,396 人	94,353 人	94,135 人	100.0%
	(国勢調査による)				(注) 総数には分類不可能の産業も含む				

産業別従業者の構成



(令和2年国勢調査による)

産業別事業所数の構成



(令和元年経済センサス基礎調査による)